

2018

矢切通信

第三話



←梅一輪いちりんほどの暖かさ。服部嵐雪のよんだ俳句だが、まさに暖かさを知らせてくれる梅の花だ。

→風もなく、よく晴れた日曜日。江戸川にも春の気配がただよう。

明日は東京でも大雪が降るといふ。

さいわい矢切の渡しは月曜日は休みなので、雪が降ってもそれほど影響はないが、休みを利用して出かけるつもりだった舟頭さんは、

「天気予報はおおげさにいっておけばたとえばずれても文句をいわれないから、オーバーめにいうからなあ」

さして気にしているふうではない。

それはさておき、気象庁も悪気があるわけではないだろうから、素直に聞いておこう。

年明けからずっと午前六時五十一分だった日の出の時間が二週間ぶりに一分だけ早くなった十四日以降、今日はあれから三分早くなった。これから二日から三日おきに一分づつ日の出の時間が早くなる。そのぶんだけ春が近づいているということだろう。

というわけで春を探して矢切の周辺を歩いてみた。まず最初に思いついたのが梅の花だった。

厳冬ののシベリア地方では軒のつらからたれ落ちる水滴を見て春が来たことを知るといふ。つまり光の春だ。

今週のクマ

→野生児のクマは、人が食べられる物は何んでも食べるが、今日はエノキの実をそ与えたら美味しく食べた。



→矢切周辺にも田舎出身者が多くいるのでフキノトウなどは、毎年採られて、年々小さくなっていく。やがて生えなくなってしまうのだろうか？



日本では、とはいわない。私は枯れ枝の先の梅の蕾がほころんだのを見ると、春だなあと感じる。そんなわけで、最初に近くの梅林に出かけてみた。

すると、日当たりのいい東側にある梅の木の子先に数輪の梅の花がほころんでいた。植物のように自分で移動できないものは、この時期は南側よりも早く陽に当たる東側のほうが早く咲くようだ。

次ぎに歩いたのが毎年見かけるフキノトウを探した。梅の花は目で春を感じるが、フキノトウは発見するだけでなく味で春を感じる植物だ。その意味で似ているのがツクシだが、こちらはもう少し待たなければならぬ。

フキノトウの出る場所を私は数ヶ所ほど知っているが、まず最初に出かけた場所では、毎年だれかに採られるせいか、年ごとに貧弱になっているようだ。

それと、フキノトウも野生とはいえ栄養も必要なようだ畑の近いところのフキノトウほど太かった。野菜に与える栄養素がこぼれてくるのだろう。

このように今週は春を探して矢切周辺を歩きまわった。植物ではないが、私の心も春を待ち望んでいる。